

PRESS KIT



PIAGET

PIAGET POLO
ミニッツリピーター



ピアジェは本日、ピアジェだけが実現できるPiaget Poloミニッツリピーターを発表しました。部分的にオープンワークを施した文字盤を通してキャリバー1290Pの内部機構をエレガントに露出させ、ラ・コート・オ・フェのマンユファクチュールの技術的な知識と職人技を余すところなく披露しています。

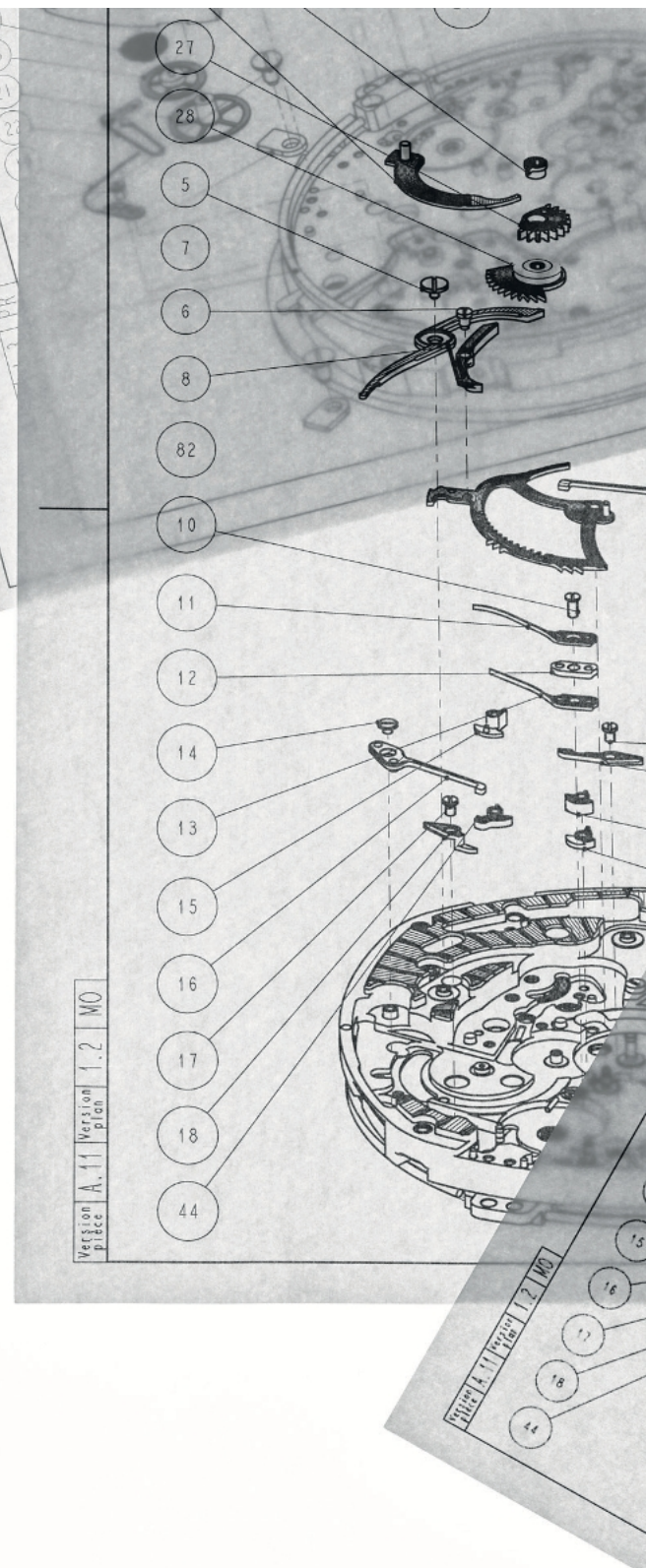
PIAGET



ジョルジュ＝エドワール・ピアジェが1874年にスイスのジュラ山脈の奥地で「常に必要以上に良いものをつくる」という創業理念のもとメゾンを設立して以来、ピアジェは超薄型時計製造を技術的な規律であると同時に芸術的な使命として追求してきました。この探求によって、史上最も薄いムーブメントを数点生み出したピアジェは、オートオルロジュリーとハイジュエリーの両分野に精通した数少ないメゾンの一つとしての地位を確立しました。Piaget Polo ミニッツリピーターは、その二元的野望を体現した最新のモデルです。

今回の発表は、メゾンが長年培ってきた超薄型チャイムウォッチの現代的なレガシーの上に形成されています。2013年、ピアジェはPiaget Polo Emperorのケースに世界最薄のミニッツリピーターを搭載し、メゾンの長年にわたる卓越した技術における新たなマイルストーンを打ち立てました。Piaget Polo ミニッツリピーターは、その成果をさらに発展させ、ピアジェのモダンなスポーツウォッチであるPiaget Polo コレクションに複雑機構を統合しつつ、同ラインの特徴である着用性とエレガンスを維持しています。

PIAGET



内側から滲み出る熟練技能

キャリバー1290Pは、ジョルジュ＝エドワール・ピアジェが1874年にメゾンを創業したラ・コート・オ・フェにあるピアジェのマニュファクチュールで、構想、開発、仕上げ、組み立てのすべてが行われています。その430個の部品は、数週間にわたる手作業による仕上げと組み立て作業を必要とします。ブリッジは手作業で面取りされ、メインプレートには繊細なギョーシェ彫りが施され、そしてミニッツリピーターのハンマーには、手作業で鏡面仕上げに研磨されています。このウォッチの心臓部はプラチナ製マイクロローターで、その優れた巻き上げ効率から物理法則とオートオルロジュリーの両方によって選ばれ、鮮やかな文字盤に合わせて、深みのあるブルーのPVDコーティングが施されています。

文字盤そのものが、ピアジェのハイウォッチ メイキングとハイジュエリーという二つの分野における卓越した技術を示す証です。ゴールドで制作され、表面には手作業によるギョーシェ彫りが施されています。これは、マニュファクチュールの中でも最も高度な技術の一つです。その結果、表面全体の仕上りは放射状に広がる太陽光線を思わせ、繊細な乳白色の外周トラックがコントラストと奥行きを与えています。精巧に作られたゴールドの縁取りが文字盤を横切るように、直線からドーム型へと変化しながら伸び、その下にあるリピーター機構の一部を覗かせています。4時位置では、「ラ・コート・オ・フェ」の刻印が入ったスモークブルーのサファイアリングが配置され、ミニッツリピーター専用のレギュレーターがはっきりと見えるようになっています。文字盤の開発だけでも150時間以上が、さらに各パーツの手作業による仕上げに50時間が費やされました。

PIAGET

ピアジェの音色

文字盤とムーブメントは、完璧な視覚的調和を保っていますが、ミニッツリピーターの本質はただ一つ、その音色によって決まります。キャリバー1290Pは、64デシベルの音量、3つの倍音、そして2,600という減衰係数を実現しています。これは、ムーブメントの機構とケースの共鳴の両方における広範な並行研究の成果です。時を告げる音はGシャープ、分をAシャープで、いずれも第5オクターブです。チャイムを鳴らすスライドは9時位置にあり、下方向に操作することで作動します。これは、ムーブメントの構造を根本から再考した結果生まれた、綿密に設計された機構です。

これらすべては、直径48mm、厚さわずか9.30mmの18Kホワイトゴールド製ケースに収められており、Piaget Poloの流れるようなシェイプインシェイプのデザインを維持しています。Piaget Polo ミニッツリピーターは3気圧の防水機能を備え、スポーティでシックなウォッチに求められる着け心地の良さと確かな信頼性を兼ね備えたチャイムウォッチとしては、非常に優れた耐久性を誇ります。フォールディングクラスプ付きの質感のあるブルーの型押しカーフスキストラップと、追加のレザーストラップが付属しています。

Piaget Poloミニッツリピーターは今年、わずか5本が制作されます（ナンバリングあり）。これはデザインによる限定版ではなく、各ピースの必要制作時間に対する労力の結果です。これはパーペチュアルカレンダーとフライングトゥールビヨンに続き、ピアジェがPiaget Poloにもたらした一連のグランドコンプリケーションの最新作です。それぞれが、技術的な野心と職人技の卓越性が融合したときにメゾンが達成できることの所信を示すとともに、ピアジェの手にかかればスポーツウォッチも芸術作品になり得ることを証明しています。

PIAGET





ハイジュエリー とオートオルロジュリーの遭遇

ピアジェは、Piaget Polo ミニッツリピーターに加え、ハイジュエリーバージョンも発表します。これは、メゾンのウォッチメイキングとジュエリーにおける二重の専門知識を存分に示しています。ベゼルにはバゲットカットのブルーサファイアがセットされ、ケースにはバゲットカットとブリリアントカットのダイヤモンドが組み合わせられています。文字盤は完全オープンワーク構造で、70時間以上を費やした手作業のすべてが遮られることなく鑑賞できます。それは、ピアジェが最も得意とする分野における、最も稀有な表現：ハイジュエリーとオートオルロジュリーが、完璧な音響的調和を奏でています。

PIAGET

ピアジェについて

ピアジェの独特の魅力はその大胆なスタイルにあります。1874年の創業以来受け継がれるクリエイティビティー溢れるスタイルは、華やかなウォッチやジュエリーに表現されています。大胆な創造性に対する情熱は、スイスのジュラ山脈にあるラ・コート・オ・フェで生まれました。メゾンの創立者であるジョルジュ＝エドワール・ピアジェが、その村にある家族の農場の中に最初の工房を設け、高性能ムーブメントの製作をはじめたのは1874年のことでした。このときからウォッチ職人としてのピアジェの名は広く知られるようになります。パイオニア精神を大切にするピアジェは、1950年代後半に薄型ムーブメントの設計・製造に乗り出しました。メゾンを代表する「アルティプラノ」の礎石となるそのムーブメントはピアジェの代名詞のひとつになり、ウォッチ製造の世界に確かな足跡を残しました。同時に、ピアジェは常に創造性と芸術的な価値に重きをおき、ゴールドと色とりどりのカラーの融合、新しいシェイプ、高価な宝石、オーナメンタルストーンの文字盤といったスタイルを受け継いできました。卓越したクラフツマンシップのもと、メゾンは「アルティプラノ」、「ピアジェ ポロ」、「ライムライト・ガラ」、「シックスティ」、「ポセション」、「ピアジェ サンライト」、「ピアジェ ローズ」、「エクストリームリーピアジェ」などの素晴らしいクリエイションを創り続けています。

PIAGET

WWW.PIAGET.COM
WWW.FACEBOOK.COM/PIAGET
WWW.INSTAGRAM.COM/PIAGET/
WWW.PINTEREST.COM/PIAGET/
WWW.YOUTUBE.COM/PIAGET
WWW.LINKEDIN.COM/COMPANY/
WEIBO.COM/PIAGET

P

